

岡倉天心の 比較文化史的研究

ボストンでの活動と芸術思想

清水 恵美子 著 2012年3月刊行

▶A5判・548頁／定価11,235円(税5%込) ISBN978-4-7842-1605-5

本書は、明治時代に美術分野で活躍した思想家、岡倉覚三（天心、1863～1913）の、特にそのボストンでの活動に焦点をあてて考察。

彼の生涯の活動に通底する思想や、ボストン社会で成そうとしていたことは、いかなるものだったのか。またボストンと日本における岡倉像を比較し、固定化され流布されている「岡倉天心」像を再検証。著者がアメリカで行った文献資料調査により、発見した新出資料などを駆使し、同時代の文化的状況、美術、演劇、音楽の動向など複眼的な視座からのアプローチを通して、より立体的な解釈を試みる。



ガードナー夫人のゲストブックに添付された岡倉の
写真（イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館蔵）

内容目次

はじめに 比較文化史における岡倉覚三研究の視座

序章 渡米前夜

—欧米美術視察旅行と「自然発達論」—

- 第1節 欧米美術視察旅行
- 第2節 鑑画会における演説
- 第3節 「自然発達論」の継続と発展

第1章 岡倉覚三のボストン・ネットワーク構築

- 第1節 世紀転換期におけるボストンの文化的位置
- 第2節 ボストン・ネットワークの形成
—モース、フェノロサ、ビゲロウ
- 第3節 岡倉とアメリカ人画家ジョン・ラ・ファージ
- 第4節 岡倉とイザベラ・スチュワート・ガードナー

第2章 ボストン美術館中国日本美術部経営

- 第1節 ボストン美術状況の俯瞰
- 第2節 経営理念の確立と展開
- 第3節 中国日本美術部の人的資源
- 第4節 経営理念の具体化と実践

第3章 オペラ台本『白狐』執筆への軌跡

- 第1節 岡倉と西洋音楽

- 第2節 未発表の英文著作と『白狐』との関連性
- 第3節 ボストンの音楽状況と『白狐』
- 第4節 音楽家レフラーと『白狐』

第4章 『白狐』に見る思想と方法論

- 第1節 岡倉の狐観と東西における狐像の比較
- 第2節 「母なるもの」の表象と観音のイメージ
- 第3節 『白狐』に内在する歌舞伎とヴァーグナー

第5章 ボストンにおける岡倉覚三の受容と表彰

- 第1節 ボストンにおける岡倉追悼
- 第2節 フェンウェイ・コートの「中国室」と岡倉

終章 日米における岡倉像の比較

- 第1節 日本の追悼式における岡倉像
- 第2節 岡倉覚三と天心像のはざまに

おわりに 本論の総括と今後の課題

【資料】1883年 ジョン・L・ガードナーの日本旅行記

参考文献／図版出典一覧

しみず・えみこ…1962年、茨城県生。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了、博士(学術)。専門は比較文化・美術史。現在、お茶の水女子大学特任リサーチ・フェロー、茨城大学・国士舘大学・芝浦工業大学非常勤講師、茨城大学五浦美術文化研究所客員所員。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	岡倉天心の比較文化史的研究		本体10,700円(税別) ISBN978-4-7842-1605-5	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

フェノロサ社会論集

山口静一編

明治期の美術運動に足跡を残したことで著名なフェノロサだが、来日当初の目的は東京大学でミル、スペンサー、ヘーゲルなど社会思想を講じたことだった。本書では、日本の学会誌や新聞・総合雑誌に発表された政治・経済・社会・宗教・哲学・比較文化論等に関する主要な論文・講演13篇を収める。

▶A5判・330頁／定価 8,190円

ISBN4-7842-1028-8

*視覚の一九世紀 人間・技術・文明

横山俊夫編

【内容】“文明人”の視覚／平地劇から舞台劇へ／蔵書家の視界／ナポレオンのコルベール／明治写真考／オーストラリアの博覧会におけるジャパン／巨船グレート・イースタンの視像／真山青果の歴史観を求めて／ジョンキナ／富士の近代／1906年ロンドン苦汗産業博覧会／病いの世紀

▶A5判・464頁／定価 6,090円

ISBN4-7842-0700-7

ドイツにおける(日本=像) ユーゲントシュティールからバウハウスまで

クラウディア・デランク著／水藤龍彦・池田祐子訳

従来のジャポニズム研究を踏まえながら、ドイツの美術・デザイン・建築と日本美術との関係、ひいては横断的な日本=像の変遷を提示する。裾野の広い日本=像の提示を可能にした彩色写真や、ヨハネス・イッテンにおける「山水画」「南画」の影響に関する考察などは特筆に値する。

▶A5判・312頁／定価 3,990円

ISBN4-7842-1194-2

*一九二〇年代東アジアの文化交流 [全2冊]

川本皓嗣・上垣外憲一編

大手前大学比較文化研究叢書

明治期の交流にくらべて研究の事例も少なく、未開拓の部分も多い1920年代の東アジア文化交流の様相を、当該各国の研究者を結集することによって、明らかにする。

I ▶A5判・232頁／定価 2,940円

ISBN978-4-7842-1508-9

II ▶A5判・274頁／定価 2,625円

ISBN978-4-7842-1584-3

ジャポニズム入門

ジャポニズム学会編

ジャポニズムの全体像に迫ろうとした一書。ジャポニズム学会20周年記念出版。これまであまり紹介されなかった地域も含め各国別の個性的な展開をやさしく読み解き、さらに建築、音楽、写真、モードという絵画・工芸以外の分野におけるジャポニズムをも射程に入れる。

▶A5判・292頁／定価 2,940円

ISBN4-7842-1053-9

*光芒の大正 川内まごころ文学館蔵 山本實彦関係書簡集

改造社関係資料研究会編

雑誌『改造』を創刊したジャーナリスト山本實彦。川内まごころ文学館所蔵の山本實彦または改造社宛に届いた書簡のうち、『改造』が最も華々しく光り輝いた大正8年(1919)から昭和5年(1930)までの書簡を詳細な解説とともに活字化。収録書簡132通、差出人82名の内訳は小説家が最も多く、学者、思想家、社会運動家など。

▶A5判・290頁／定価 5,250円

ISBN978-4-7842-1459-4

近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった——。京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果である。

▶A5判・628頁／定価 9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーマにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

▶A5判・454頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

従来、全面的な研究のなかった幸田露伴。文学面はもちろん都市・遊技・自然観察・人生論等の著作から多角的にアプローチ。国際日本文科研究センターでの共同研究13篇。

【執筆者】井波律子／池内紀／白幡洋三郎／猪木武徳／細川周平／平松隆円／佐伯順子／井上章一／鈴木貞美／岩井茂樹／劉建輝

▶A5判・318頁／定価 5,250円

ISBN978-4-7842-1444-0

*万国博覧会史の研究

吉田光邦編

19世紀、体制を整備しつつあった国家・近代的な企業・国民という意識に支えられた大衆社会を基盤にスタートした新しい情報メディアの場、万国博覧会。3年余りにわたる研究会の成果をもとに、内外博覧会の諸相を多角的な視座から取り扱った15篇。

▶A5判・374頁／定価 6,825円

ISBN4-7842-0414-8

岩倉使節団の比較文化史的研究

芳賀徹編

内外の資料を駆使し、比較文化史的視角から岩倉使節団を論じた共同研究。編者をはじめ、日米英の8名が日米英仏伊における使節団を論じる。

【執筆者】芳賀徹／マリウス・ジャンセン／マリオン・メイヨ／イアン・ニッシュ／松村剛／太田昭子／シドニー・ブラウン／泉三郎

▶A5判・358頁／定価 6,825円

ISBN4-7842-1145-4

*中国文人画家の近代 豊子愷の西洋美術受容と日本

西楨偉著

中国近代を代表する文人・芸術家、豊子愷(Feng Zi-kai, 1898-1975)は、民国期から人民共和国期まで世間人情を反映する抒情漫画や随筆、散文を遺した。本書では、豊子愷が日本を通して西洋美術を受容したことの意味を問うと同時に、「文化の越境者」豊子愷の本質に迫り、20世紀日中知覚的交流の軌跡を検証する。

▶A5判・384頁／定価 5,775円

ISBN4-7842-1230-2

*柳宗悦と民藝運動

熊倉功夫・吉田憲司編

【品切】

柳宗悦の思想とその仕事は、近代日本が生んだユニークで価値のある業績であり、形をかえながら継承していく必要がある、という認識のもと、各世代の研究者が自由に問題意識を持ち、それぞれの視点・立場から柳宗悦像を論じる。国立民族学博物館で2000年から2年間にわたって行われた共同研究の成果。

▶A5判・354頁／定価 4,830円

ISBN4-7842-1236-1

文人世界の光芒と古都奈良 大和の生き字引・水木要太郎

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

近代奈良において水木要太郎(1865-1938)により形成された水木コレクションを主な分析素材とし、日本史・考古学・建築史・国文・美術史・地理学等にわたる学際的な一書。多岐にわたるコレクションの形成過程や収集意図のもつ歴史的意義を解明。国立歴史民俗博物館での共同研究の成果。

▶A5判・508頁／定価 8,190円

ISBN978-4-7842-1481-5

みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

平安や桃山時代がしばしば話題になる歴史都市・京都は、実は近現代に大きく変わったまちであった——。「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じ、さまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。『京都新聞』の連載を再構成しまとめたもの。

▶A5判・268頁／定価 2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

*茶道と恋の関係史

岩井茂樹著

「恋は茶道の精神に反する」とされた一谷崎潤一郎の随筆にある興味深い一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探る。茶会の掛物のほか、茶道具の銘に隠された「恋」を紹介し、なぜ恋歌が問題となり、また使われることもあったのかを明らかにする。

▶A5判・232頁／定価 3,990円

ISBN4-7842-1313-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。